

小美玉市小中学校規模配置適正化基本方針 (素案)

平成24年 月

小美玉市教育委員会

目 次

1	小中学校の現状	1
(1)	児童生徒数の推移と今後の見込み	1
(2)	学校規模の状況	2
2	小美玉市の学校教育が目指すべき方向性	2
(1)	学校で形成する人間像と能力	2
(2)	学校の在り方と取り組み	3
(3)	学校教育の実態と課題	3
(4)	これからの学校のビジョン	3
①	基本的な方向性	3
②	新しい学校づくりの検討	4
3	学校規模の適正化についての基本的な考え方	4
(1)	学校規模（学年の学級数）についての考え方	4
(2)	学級規模についての考え方	5
(3)	教員配置についての考え方	5
4	学校配置の適正化についての考え方	5
(1)	通学区域の見直しについての考え方	5
(2)	学校の統合についての考え方	6
(3)	通学手段についての考え方	6
5	適正化の進め方についての基本的な考え方	6
(1)	市民の理解	6
6	その他	7
(1)	基本方針の見直し	7

○資 料

- 資料1 小美玉市学校規模学校配置適正化検討委員会の活動経過
- 資料2 小美玉市学校規模学校配置適正化検討委員名簿
- 資料3 市民アンケート集計結果

はじめに

全国的な少子化の傾向と同様に、本市においてもピーク時の6割程度まで児童生徒の減少が進んでおり、これからの本市の人口構成を見ても、少子高齢化の進行は避けられず、ますます学校の小規模化が進むことは容易に予想でき、これからの学校の適正規模配置を考え、教育環境を整備していくことは重要な課題となっています。

児童生徒の減少による学校の小規模化については、お互いが切磋琢磨しながら伸びていこうとする面で、人間関係が固定化し、多様な意見に触れる機会が少なくなることが懸念されています。

それぞれの学校には、歴史的経緯と地域の皆様の思いがあり、特に小学校は子どもたちを通し、地域コミュニティの核として長年地域と多様な関わりを持ってきました。しかしながら、学校が小規模化していく中で、将来に向けて小美玉市の学校教育を考えると、小美玉市の子どもたちが等しくより良い条件で学びあうことができるための環境を整えることは、現在の教育行政に課せられた責務であり、そのためには保護者・地域・学校と行政が一体となって取り組む必要があります。

小美玉市教育委員会は、これらの諸課題に対応するため、少子化の進展による将来的な児童生徒の減少に対応し、充実した教育環境を確保するため、平成22年11月に「小美玉市学校規模学校配置適正化検討委員会」を設置し、市の学校教育がめざすべき方向性や、学校規模（学級数や学級人数）や学校配置（通学区域や通学手段）についての考え方、適正化の進め方等、幅広い観点で協議・検討を行い、平成24年2月に「小美玉市小中学校の規模及び配置の適正化に関する基本的な考え方」の答申を受け、市教育委員会では答申内容について審議し、ここに「小美玉市小中学校規模配置適正化基本方針」として策定したところであります。

小美玉市の将来を担う子どもたちの豊かな教育環境を創造し、安心安全な学校生活がおくれるよう、市教育委員会として全力で取り組んでまいります。

なお、この基本方針策定にあたり、熱心な議論を重ね、貴重なご意見を賜りました小美玉市学校規模学校配置適正化検討委員会の委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成24年 月

小美玉市教育委員会

1. 小中学校の現状

(1) 児童生徒数の推移と今後の見込み

小美玉市の合併当時、平成18年5月1日の小学校児童数は3,188人、中学校生徒数は1,629人でありました。全国的に少子化が進む中で、小美玉市においても、平成29年度には小学校2,820人、中学校1,460人と推測され、平成18年度との比較で、小学校が約12%の減、中学校が約10%の減となる見込みです。現状のまま推移すれば、将来減少幅はさらに大きくなるものと考えられます。

○小学校の児童数の推移

(人)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
小川小学校	399	390	407	385	395	387	373	379	366	358	354	358
野田小学校	237	254	235	233	258	234	248	252	264	273	274	269
上吉影小学校	197	203	209	210	204	200	184	175	154	143	135	135
下吉影小学校	85	80	80	76	75	79	76	86	79	77	77	71
橘小学校	244	231	218	212	207	209	200	202	192	185	177	178
小川地区小計	1162	1158	1149	1116	1139	1109	1081	1094	1055	1036	1017	1011
竹原小学校	354	354	355	343	334	316	308	295	289	284	262	251
羽鳥小学校	503	471	450	462	452	466	462	467	495	517	519	534
堅倉小学校	370	368	375	373	348	357	382	385	371	378	375	350
納場小学校	340	335	330	317	315	313	313	322	327	316	314	318
美野里地区小計	1567	1528	1510	1495	1449	1453	1465	1469	1482	1495	1470	1453
玉里小学校	235	241	234	238	243	237	221	209	200	193	182	169
玉里北小学校	158	167	161	162	162	157	168	151	142	128	130	131
玉里東小学校	66	69	67	65	62	65	65	66	67	66	65	56
玉里地区小計	459	477	462	465	467	459	454	426	409	387	377	356
合 計	3188	3163	3121	3076	3055	3021	3000	2989	2946	2918	2864	2820

○中学校の生徒数の推移

(人)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
小川南中学校	333	331	317	313	307	305	300	299	306	296	305	290
小川北中学校	285	248	250	228	234	207	231	247	282	263	261	231
美野里中学校	760	788	789	767	775	766	756	736	744	736	723	709
玉里中学校	251	253	242	245	225	228	217	240	229	245	224	230
合 計	1629	1620	1598	1553	1541	1506	1504	1522	1561	1540	1513	1460

(2) 学校規模の状況

小学校の全体の学級数は、昭和61年度が159学級と最も多く、その後児童数の減少とともに平成23年度では131学級となり、約18%の減少となっています。12学級以下の学校は12校中7校あり、小規模校の割合が半数を超えている状況です。

中学校の全体の学級数は、平成3年度が66学級と最も多く、平成23年度では、52学級となり約21%の減少となっています。12学級以上ある学校は4校中1校しかなく、適正学級数以上の学校は美野里中学校のみとなっています。

2. 小美玉市の学校教育が目指すべき方向性

(1) 学校で形成する人間像と能力

学校は子ども一人一人が受け入れられ、安心して学ぶことができ、自己肯定感を得られる場所でなければなりません。これからの社会を構成し、社会に貢献する自立した人間を育成するには、学校教育を通じて自己肯定感と、それを基盤とする自己有用感を形成することが不可欠です。

小美玉市では学校教育を通じて

「社会規範を身につけ、他人を思いやることができる」

「他人に迷惑をかけず、物事の善悪をしっかりと判断できる」

「困難に負けず、たくましく生きる」

等の人間としての生きる力を育成できるよう目指します。

また、次のような能力を伸ばしていける教育を目指します。

「読み書きや計算などの基礎学力」

「相手を思いやる気持ちや社会規範」

「自分で調べたり考えたりする力」

「人間としての自分の生き方を考える力」

「人前で自分の考えを分かりやすく述べる力」

「集団活動に参画し、協同的に問題解決する力」

しっかりとした知識や思考力を基盤に、人間としての生き方を考える力を身に付け、豊かな心と思いやりをもって他者と協力し合って、郷土を愛するところ豊かな人づくりを目指します。

(2) 学校の在り方と取り組み

知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（健やかな体）のすべての面にわたって、子ども一人一人に応じる教育活動と集団の中で子どもを成長させる教育活動、この両方の必要性が認識されています。そのために多様な学習形態や指導形態の工夫が求められており、その前提として学校が安全で、子どもたちが楽しく生き生きと過ごせ、お互いに信頼できる場所であればなりません。また、教職員が教育活動に集中できる条件が整えられ、相互に協力的であるとともに、教職員と保護者、住民が率直に話し合える関係にあることも重要であります。開かれた学校づくりを推進し、魅力あふれる学校づくりを目指します。

(3) 学校教育の実態と課題

今の子どもたちは知的な側面、社会的な側面の双方において基礎的な力は育っているものの、積極的に知識を獲得したり、人間としての在り方を考えたり、他者とかわったりする力の育成については課題を残しているのが現状です。

また、施設設備の安全、図書・教材の充実、教員の多忙という面で課題があり、施設の安全面では、学校は緊急時の避難場所にもなっていることから、学校施設の耐震化を迅速に進めることも課題であります。

全体的に、基礎的な教育活動と学習支援は充実しているものの、一人一人の個性に応じた指導や個や集団を活かす多様な指導形態、学習形態の工夫という面では課題を残しています。

多様な児童生徒が在籍し関わり合う学校では、児童生徒間の不適応や人間関係のトラブルを防止し、それらが発生したときには迅速に発見、解決することが求められます。本市の小、中学校でも日々そうした取り組みがなされて一定の成果を上げていますが、問題解決に時間がかかるケースもあることから、児童生徒の行動面、心理面での問題の防止、発見、対処の組織的な能力を高めることが求められています。

(4) これからの学校のビジョン

①基本的な方向性

学校は、図書や教材等が充実した安全な環境の下で、子ども一人一人に目が行き届くとともに子ども同士が励まし合って成長する場所であればなりません。また、教員同士が協力し合いながら授業の準備などに十分な時間をかけられる場所であれば

なりません。本市の学校教育をさらによいものにしていくためには、これまで継続されてきた基礎的な教育活動と学習支援を維持していくとともに、一人一人の個性に応じた指導や個や集団を活かす多様な指導形態、学習形態の工夫、体験的学習活動などをより発展させることが求められています。

一人一人の子どもに目が行き届くためには学習集団が大きすぎないことが必要です。一方、子ども同士が励まし合ったり、多様な教育活動の工夫を行ったり、行動面や心理面の問題に柔軟に対応するためには一定の児童生徒数と教職員数が必要になることから、学校の適正規模を考える際には、この両面を考慮する必要があります。

②新しい学校づくりの検討

このような学校の在り方を実現するために学校の規模と配置を適正化するだけでなく、これまでにない新しい学校づくりを検討していく必要があります。

その際、小中一貫教育は一つの可能性として検討していきます。小中一貫校では、小学校と中学校の教職員がそれぞれの専門性を活かしながら協力し合って指導に当たり、義務教育9年間を見通した教育課程を編成したり、小学生と中学生が一体となった行事を実施したりすることができます。

また、本市の野田小学校で取り組みが始まっているコミュニティ・スクールも検討すべき可能性の一つです。コミュニティ・スクールでは、学校と保護者、地域住民との連携がいっそう充実し、学校でのさまざまな取り組みの可能性が広がるとともに、学校と地域との一体感が強化されてコミュニティづくりにも効果的です。

3. 学校規模の適正化についての基本的な考え方

(1) 学校規模（学年の学級数）についての考え方

以上で述べてきたように、多様な子どもたちが交流し励まし合い、教職員が協力し合って多様な工夫あふれる教育活動を行うとともに、行動面や心理面での問題の防止・発見・対処を柔軟に行うためには、ある程度以上の学校規模が必要であると考え、本市における学校の適正規模を次のとおりとします。

(望ましい学校規模)

○小学校 学年2学級以上

○中学校 学年3学級以上

学年の児童数が20名未満になる小学校及び学年1学級になる中学校については優先的に対策を講じていきます。

(2) 学級規模についての考え方

子どもたちが落ち着いた学校生活を送り、教員の目が一人一人の子どもに行き届くためには学級規模が大きすぎないことが必要です。

アンケートでは小、中学校とも、市民、保護者、小、中学校教員いずれも1学級あたり21～30名が望ましいとする割合が最も高い結果となりました。複式学級をつくらないことは、市民、保護者、小、中学校教員いずれからも重視すべきとされており、とりわけ小学校教員はその割合が高い傾向にありました。また、アンケートの自由記述では、大規模校において子ども一人一人に目が行き届かないのではないかという保護者や市民の懸念がうかがえました。

以上のことを踏まえ、本市における学級の適正規模を次のとおりとします。

(望ましい学級規模)

○小学校及び中学校ともに1学級の規模は20～30名

36名以上の学級が生じないように配慮し、大規模校では子ども一人一人に目が行き届くよう学級規模に配慮していきます。

(3) 教員配置についての考え方

以上のような学校・学級規模を実現するためには、教員配置の改善が必要となってきます。本市としては、教員配置の改善を県や国に要望するとともに、市独自の教員配置の可能性について検討していきます。

4. 学校配置の適正化についての基本的な考え方

(1) 通学区域の見直しについての考え方

学校規模適正化のための通学区域の見直しは、アンケートにおいても市民、保護者、教員いずれにおいても高い割合で支持されました。また、通学時間や友人関係など多様な事情から保護者が自らの子どもを適切な学校に通わせることができるよう、通学区域の弾力的な扱いができるよう検討していきます。

その場合、後述の通学手段の他、通学区域の設定はコミュニティのあり方と密接に関わっていることから、子どもや保護者、地域住民の感情に十分配慮していきます。

(2) 学校の統合についての考え方

学校の統合は学校規模適正化の一つの方法ではありますが、単にそれにとどまらず新しい学校づくりに向けての取り組みでもあります。アンケートでは、学校規模適正化のための学校統合は必ずしも高い支持を得ているわけではありません。とりわけ保護者が学校規模適正化の方法として学校統合を支持する割合は、小、中学校ともに4割未満でした。しかし、通学区域の見直しのみで適正な学校規模を実現することは困難であります。学校規模の適正化がこれまで述べてきたような子どもの教育環境の向上のために必要であるなら、学校統合を含めてその方策を検討すべきであると考えます。

以上のことから、学校規模適正化の方策として学校の統合を検討していきます。その場合、通学距離や通学上の安全面に配慮し、あくまでもそれが子どもたちの教育環境の向上につながるよう、新しい学校づくりという考え方を基に行っていきます。また、学校の統合はコミュニティのあり方と密接に関わっていることから、子どもや保護者、地域住民の感情に十分配慮し検討していきます。

(3) 通学手段についての考え方

通学区域の見直しや学校統合を行うと、通学距離が遠くなり通学にこれまで以上の時間がかかるようになることが想定されます。それが子どもや保護者の過度の負担をもたらさないよう、スクールバスの運行など通学手段の保障について検討していきます。なお、スクールバスの運行などについて検討する際には、不公平感や学校教育への支障が生じないように十分に配慮していきます。

5. 適正化の進め方についての基本的な考え方

(1) 市民の理解

学校規模・配置の適正化については、何よりも市民の皆様からの理解を得ることが大切です。とりわけ学校の配置は、子どもたちや保護者ばかりでなく、一般の市民にとっても重要な意味を持っており、学校はコミュニティの一つの拠点といえるからです。適正化の具体案を検討、決定する過程においては、市民の意向を踏まえ、市民に対して十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めてまいります。とりわけ、通学区域の見直しや学校統合の対象となる地域の住民に対しては、よりていねいな合意形成の手続きで進めてまいります。また、その際には、統合の対象となる学校の跡地や施設設備の活用についても、地域の意向を十分踏まえ、有効な活用方策を検討していきます。

6. その他

(1) 基本方針の見直し

本基本方針は、今後の社会情勢や教育制度の変化等、方針に影響を与える変化が生じた場合には、必要に応じ見直しします。

資料1

【小美玉市学校規模学校配置適正化検討委員会の開催経過】

区分	実施日	協議内容
第1回	平成22年11月18日	○委嘱状交付 ○諮問書の交付 ○学校適正化の趣旨及び取り組みについて ○小美玉市の小中学校の現状と今後の児童生徒数の推移 ○公立小中学校の適正規模についての国及び県の動向
第2回	平成22年12月21日	○検討委員に対する各種制度等の勉強会 ○学校での取り組みについて ○教職員配置の仕組みについて
第3回	平成23年 1月18日	○市内学校視察(小学校3校、中学校2校) (野田小、羽鳥小、玉里東小、美野里中、玉里中)
第4回	平成23年 2月10日	○学校の校務分掌について ○学校視察を踏まえての意見交換 ○野田小学校コミュニティスクール実践研究について
第5回	平成23年 2月22日	○小美玉市の財政状況について ○基本計画策定に向けての今後の取り組みについて
第6回	平成23年 3月23日	○学校教育の在り方に関する市民の意向確認について ○今後のスケジュールについて
第7回	平成23年 4月26日	○学校適正化の基本方針及び市民意向調査アンケートの内容について
第8回	平成23年 5月24日	○学校規模学校配置適正化にかかる基本方針について ○学校適正化にかかる情報交換
第9回	平成23年 6月21日	○先進地視察 水戸市立国田小中学校(併設型小中一貫校の取り組み等) 常陸大宮市立緒川小学校(常陸大宮市の学校適正化の取り組み、学校運営等)
第10回	平成23年 7月14日	○視察研修等これまでの活動を通じての意見交換 ○基本方針案の検討協議
第11回	平成23年 7月28日	○基本方針案の検討協議
第12回	平成23年 8月26日	○基本方針案の検討協議
第13回	平成23年 9月27日	○基本方針案の検討協議
第14回	平成23年10月27日	○基本方針案の検討協議
第15回	平成24年 2月 9日	○基本方針案の最終確認及び答申

小美玉市学校規模学校配置適正化検討委員会名簿

No.	第4条区分	氏名	役職名	任期
1	学識経験者	水本 徳明	筑波大学准教授	平成22年10月25日～
2	議会代表	野村 武勝	小美玉市議会元議長	平成22年10月25日～ 平成23年11月30日
3		中村 強	小美玉市議会元副議長	平成22年10月25日～ 平成23年11月30日
4		山口 良元	小美玉市議会元文教福祉常任委員長	平成22年10月25日～ 平成23年11月30日
5		村田 春男	小美玉市議会議長	平成24年1月4日～
6		戸田 見成	小美玉市議会副議長	平成24年1月4日～
7		萩原 茂	小美玉市議会文教福祉常任委員長	平成24年1月4日～
8	学校長代表	中川 稔	小川小学校校長	平成22年10月25日～
9		小林 義治	美野里中学校校長	平成22年10月25日～
10		矢口 忠衛	玉里小学校校長	平成22年10月25日～
11	小中学校保護者代表	新谷 宣恵	市PTA連絡協議会女性ネットワーク委員長 玉里中学校女性ネットワーク委員	平成22年10月25日～ 平成23年3月31日
12		星野 広幸	市PTA連絡協議会副会長 小川北中学校PTA会長	平成22年10月25日～
13		福田 智彦	市PTA連絡協議会副会長 美野里中学校PTA会長	平成22年10月25日～
14		小仁所 浩	市PTA連絡協議会幹事 橘小学校PTA会長	平成22年10月25日～
15		西村 浩一	玉里東小学校PTA会長	平成22年10月25日～
16		立原 幸子	堅倉小学校PTA副会長	平成22年10月25日～
17		鈴木 美樹	上吉影小学校PTA副会長	平成22年10月25日～
18		邊見 亜津子	玉里北小学校地区子ども会育成連合会会長	平成22年10月25日～
19	その他教育委員会が適当と認める者	中島 淨	市区長会長	平成22年10月25日～
20		沼田 マサ	市女性連絡協議会代表 おみたまハーモニー連絡会会長	平成22年10月25日～
21		飯島 利武	社会教育委員議長	平成22年10月25日～
22		竹内 昌信	市民生委員児童委員連合会長	平成22年10月25日～

市民アンケート調査単純集計

資料3

I 調査概要

(1)実施時期 2011年5月～6月

(2)対象者

一般市民:住民基本台帳より1,000人を無作為抽出(ただし、内200人については幼稚園児あるいは保育園児のいる世帯から抽出)

保護者:小中学校に通う児童生徒の全保護者3,671人(実数)

学校教員:小学校全教員187人、中学校全教員98人

(3)回収率

表1 回収率

	対象者数	回収数	回収率
市民	1,000	455	45.5
保護者	3,671	2,730	74.4
小学校教員	187	177	94.7
中学校教員	98	86	87.8
計	4,956	3,448	69.6

II 調査結果

1. 回答者の属性

(1)年齢

表2 回答者の年齢

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答	計
市民	14.3	21.3	15.2	18.2	20.7	9.0	1.3	100.0
保護者	3.4	50.5	41.4	2.9	0.6	0.1	1.2	100.0

(2)性別

表3 回答者の性別

	男	女	無回答	計
市民	36.9	59.1	4.0	100.0
保護者	11.2	84.4	4.4	100.0

(3)幼稚園児・保育園児の有無

表4 幼稚園児・保育園児の有無

	いる	いない	無回答	計
市民	22.6	75.6	1.8	100.0
保護者	22.2	74.0	3.8	100.0

(4) 居住する学区、児童生徒の通学する学校、勤務する学校

表5 学校

	市民	保護者	小学校教員	中学校教員
小川小	14.1	10.0	10.2	—
野田小	6.6	7.0	9.6	—
上吉影小	4.8	4.0	4.5	—
下吉影小	2.9	2.4	6.2	—
橘小	7.9	5.6	7.3	—
竹原小	8.6	8.3	9.6	—
羽鳥小	14.9	12.6	13.0	—
堅倉小	13.4	10.2	10.7	—
納場小	10.3	9.3	10.2	—
玉里小	6.2	6.8	7.3	—
玉里北小	4.6	4.5	6.2	—
玉里東小	4.0	1.9	5.1	—
小川南中	—	9.0	—	22.1
小川北中	—	5.8	—	19.8
美野里中	—	17.0	—	36.0
玉里中	—	6.9	—	20.9
分からない	0.4	—	—	—
無回答	1.3	1.0	0.0	1.2
計	100.0		100.0	100.0

2. 将来、小美玉市の子どもたちにどのような人間になってほしいと思いますか。以下の項目の中から重要と思われるものを3つ以内で選んで、□の中に番号を記入してください。

表6 なってほしい人間像

	市民	保護者	小学校教員	中学校教員
1 社会的規範を身に付け、他人を思いやることのできるような人間	71.2	65.8	88.1	83.7
2 社会の役に立つことのできるような人間	11.0	9.2	22.0	25.6
3 他人に迷惑をかけず、物事の善悪をしっかりと判断できるような人間	71.0	66.7	63.8	59.3
4 自分の夢を実現し生活できるような人間	10.5	12.2	17.5	23.3
5 技術を身に付けて生活できるような人間	6.2	8.4	2.8	3.5
6 健康で丈夫な人間	29.2	30.2	9.6	10.5
7 自分で新しい道を切りひらいていけるような人間	14.7	14.8	14.7	15.1
8 国際社会の中で活躍できるような人間	7.7	4.9	3.4	9.3
9 希望の大学に進学し、希望の職業に就職できるような人間	1.5	2.2	2.3	1.2
10 自分の考えや思いを主張できるような人間	22.6	25.0	10.7	8.1
11 困難に負けず、たくましく生きる人間	49.7	55.3	63.8	55.8
12 その他()	0.4	0.5	0.6	0.0

市民から中学校教員まですべての対象者で上位3項目が同じ集計結果となりました。

- ①社会的規範を身に付け、他人を思いやることのできるような人間
- ②他人に迷惑をかけず、物事の善悪をしっかりと判断できるような人間
- ③困難に負けず、たくましく生きる人間

これは、人間としての生き方・考える力を身に付け、他者とかかわりながら社会を形成する人間を育成することを、市民・保護者等の大人が望んでいると思われます。

3. 学校教育を通じて子どもたちに次のような能力をどの程度身につけてほしいと思いますか。
それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

表7 身につけてほしい能力

		ぜひ身につけてもらいたい	身につけてもらいたい	できれば身につけてもらいたい	身につけてもらいたくないと思わない	無回答
(1) 読み書きや計算などの基礎学力	市民	79.3	16.7	2.0	0.0	2.0
	保護者	85.6	12.3	0.6	0.0	1.4
	小学校教員	96.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	中学校教員	91.9	5.8	0.0	0.0	2.3
(2) 自分で調べたり考えたりする力	市民	63.3	28.6	4.6	0.4	3.1
	保護者	74.9	21.9	1.6	0.0	1.5
	小学校教員	70.1	27.1	1.7	0.0	1.1
	中学校教員	69.8	27.9	0.0	0.0	2.3
(3) 将来レベルの高い高校や大学に進学できる学力	市民	9.9	23.5	57.4	5.9	3.3
	保護者	12.7	31.5	49.0	4.9	1.9
	小学校教員	7.9	31.1	59.3	0.6	1.1
	中学校教員	12.8	38.4	44.2	2.3	2.3
(4) 人前で自分の考えを分かりやすく述べる力	市民	40.4	43.7	11.0	0.9	4.0
	保護者	51.9	38.5	7.9	0.1	1.6
	小学校教員	46.9	44.6	7.9	0.0	0.6
	中学校教員	48.8	45.3	3.5	0.0	2.3
(5) 意見の異なる人と議論する力	市民	21.5	38.2	31.0	5.3	4.0
	保護者	22.8	42.6	30.0	2.9	1.7
	小学校教員	22.0	45.2	31.6	0.6	0.6
	中学校教員	32.6	51.2	14.0	0.0	2.3
(6) 多様な文化や考え方を理解する力	市民	29.7	36.3	28.1	1.8	4.2
	保護者	29.9	41.3	25.7	1.1	2.1
	小学校教員	40.1	46.3	13.6	0.0	0.0
	中学校教員	44.2	41.9	10.5	0.0	3.5
(7) 批判的に物事をとらえる力	市民	5.1	19.6	33.4	37.1	4.8
	保護者	6.8	21.8	33.8	34.8	2.9
	小学校教員	7.3	23.2	42.9	25.4	1.1
	中学校教員	14.0	30.2	29.1	23.3	3.5
(8) 科学的に物事をとらえる力	市民	10.8	28.4	48.6	8.4	4.0
	保護者	11.8	28.7	47.8	8.9	2.8
	小学校教員	21.5	53.7	24.3	0.6	0.0
	中学校教員	19.8	54.7	22.1	0.0	3.5
(9) 集団活動に参画し、協同的に問題解決する力	市民	37.6	40.4	16.7	2.0	3.3
	保護者	43.0	39.8	15.0	0.5	1.8
	小学校教員	55.4	38.4	6.2	0.0	0.0
	中学校教員	62.8	33.7	0.0	0.0	3.5
(10) 集団をまとめ、引っ張っていくリーダーシップ	市民	15.6	35.6	39.8	4.6	4.4
	保護者	19.4	35.8	40.1	2.9	1.8
	小学校教員	18.6	45.2	36.2	0.0	0.0
	中学校教員	22.1	50.0	23.3	1.2	3.5
(11) 人間としての自分の生き方を考える力	市民	52.3	34.1	9.7	0.9	3.1
	保護者	56.9	33.7	7.4	0.4	1.7
	小学校教員	70.1	24.9	5.1	0.0	0.0
	中学校教員	77.9	17.4	2.3	0.0	2.3
(12) 相手を思いやる気持ちや社会規範	市民	75.8	17.6	3.1	0.4	3.1
	保護者	82.0	14.9	1.6	0.0	1.4
	小学校教員	93.8	6.2	0.0	0.0	0.0
	中学校教員	95.3	2.3	0.0	0.0	2.3
(13) 芸術を理解したり楽しんだりする感性	市民	20.4	39.3	35.4	1.3	3.5
	保護者	28.5	41.4	27.7	0.9	1.5
	小学校教員	24.9	48.0	26.6	0.6	0.0
	中学校教員	23.3	55.8	17.4	1.2	2.3

集計結果の上位5項目は

- ①読み書きや計算などの基礎学力(97.9%)
- ②相手を思いやる気持ちや社会規範(97.0%)
- ③自分で調べたり考えたりする力(95.9%)
- ④人間としての自分の生き方を考える力(91.8%)
- ⑤人前で自分の考え方を分かりやすく述べる力(90.0%)

※割合については、「ぜひ身につけてもらいたい」と「身につけてもらいたい」の合計の平均率で示しています。

4. あなたが勤務する学校では、次のような力がどの程度子どもたちの身についていると思いますか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

表8 能力が身についている程度

		とても身についている	身についている	少し身についている	あまり身につしていない	無回答
(1) 読み書きや計算などの基礎学力	小学校教員	5.6	70.6	20.9	2.8	0.0
	中学校教員	3.5	45.3	43.0	3.5	4.7
(2) 自分で調べたり考えたりする力	小学校教員	1.7	36.7	52.5	9.0	0.0
	中学校教員	2.3	29.1	55.8	8.1	4.7
(3) 将来レベルの高い高校や大学に進学できる学力	小学校教員	0.0	10.7	62.1	26.6	0.6
	中学校教員	0.0	7.0	52.3	34.9	5.8
(4) 人前で自分の考え方を分かりやすく述べる力	小学校教員	0.6	20.3	67.8	10.7	0.6
	中学校教員	0.0	10.5	58.1	26.7	4.7
(5) 意見の異なる人と議論する力	小学校教員	0.6	8.5	59.9	29.9	1.1
	中学校教員	1.2	5.8	44.2	43.0	5.8
(6) 多様な文化や考え方を理解する力	小学校教員	0.0	22.0	57.6	19.2	1.1
	中学校教員	0.0	14.0	61.6	19.8	4.7
(7) 批判的に物事をとらえる力	小学校教員	1.7	9.0	57.1	29.9	2.3
	中学校教員	0.0	9.3	60.5	25.6	4.7
(8) 科学的に物事をとらえる力	小学校教員	0.6	13.6	61.0	23.2	1.7
	中学校教員	0.0	16.3	48.8	30.2	4.7
(9) 集団活動に参画し、協同的に問題解決する力	小学校教員	3.4	44.1	47.5	5.1	0.0
	中学校教員	3.5	43.0	43.0	5.8	4.7
(10) 集団をまとめ、引っ張っていくリーダーシップ	小学校教員	0.0	16.9	62.7	19.2	1.1
	中学校教員	0.0	12.8	51.2	30.2	5.8
(11) 人間としての自分の生き方を考える力	小学校教員	1.1	21.5	57.6	19.2	0.6
	中学校教員	2.3	26.7	53.5	11.6	5.8
(12) 相手を思いやる気持ちや社会規範	小学校教員	5.1	50.8	40.1	4.0	0.0
	中学校教員	7.0	44.2	40.7	3.5	4.7
(13) 芸術を理解したり楽しんだりする感性	小学校教員	1.7	24.9	63.8	9.6	0.0
	中学校教員	3.5	23.3	58.1	10.5	4.7

前質問で特に身につけほしいという意見が多かった項目の中で、小中学校の教員が「とても身につけている」あるいは「身につけている」としている割合が40%を超えているのは、「読み書きや計算などの基礎学力」「相手を思いやる気持ちや社会規範」「集団活動に参画し、協同的に問題解決する力」である。「自分で調べたり考えたりする力」は小中学校とも40%に届かず、「人間としての自分の生き方を考える力」は30%に届かない。「人前で自分の考えを分かりやすく述べる力」に至っては小学校でおよそ20%、中学校でおよそ10%である。知的な側面、社会的な側面の双方において基礎的な力は育っているものの、積極的に知識を獲得したり、人間としての在り方を考えたり、他者とかがわったりする力の育成について課題を残している結果となった。

5. 学校で、次のことにどの程度取り組んでほしいと思いますか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。(これからの小／中学校では次のことにどの程度積極的に取り組むべきだと思いますか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。)

表9 取り組みへの希望／必要性認識

		ぜひ取り組んでもらいたい(ぜひ取り組むべき)	取り組んでもらいたい(取り組むべき)	できれば取り組んでもらいたい(できれば取り組むべき)	取り組んでもらいたくない(取り組むべきと思わない)	無回答
(1) 読み書きや計算の反復学習	市民	61.3	31.0	4.8	0.4	2.4
	保護者	69.0	24.7	4.6	0.2	1.5
	小学校教員	75.7	22.0	1.7	0.0	0.6
	中学校教員	65.1	31.4	2.3	0.0	1.2
(2) 個人で調べて発表する学習	市民	26.8	45.7	21.5	1.5	4.4
	保護者	28.7	43.2	23.7	2.7	1.8
	小学校教員	35.6	46.9	16.9	0.0	0.6
	中学校教員	30.2	54.7	14.0	0.0	1.2
(3) グループで話し合ったり調べたりする学習	市民	33.0	47.0	13.2	1.5	5.3
	保護者	37.6	45.2	14.5	0.6	2.1
	小学校教員	38.4	53.1	7.9	0.0	0.6
	中学校教員	50.0	40.7	8.1	0.0	1.2
(4) 一人一人の子どもが自分に合った内容を学習する個別指導	市民	19.6	25.9	40.9	9.5	4.2
	保護者	28.5	28.2	34.6	6.9	1.8
	小学校教員	40.7	39.0	19.2	1.1	0.0
	中学校教員	29.1	46.5	20.9	2.3	1.2
(5) 複数の教師と一緒に指導する授業	市民	11.6	23.5	36.5	23.5	4.8
	保護者	18.8	26.5	35.4	16.6	2.6
	小学校教員	40.1	36.2	22.6	0.6	0.6
	中学校教員	36.0	37.2	25.6	0.0	1.2
(6) 学級を分けて行う少人数授業	市民	12.7	22.4	33.0	26.2	5.7
	保護者	23.3	23.9	30.4	19.3	3.0
	小学校教員	47.6	30.5	20.9	0.6	0.6
	中学校教員	32.6	41.9	23.3	1.2	1.2
(7) 職業体験などの社会体験活動	市民	33.0	32.1	28.1	3.3	3.5
	保護者	38.4	34.9	22.5	2.1	2.0
	小学校教員	15.8	48.6	30.5	5.1	0.0
	中学校教員	20.9	52.3	22.1	2.3	2.3
(8) 高度な発展的内容の指導	市民	6.2	19.1	44.8	24.8	5.1
	保護者	7.9	23.2	45.4	21.0	2.5
	小学校教員	2.3	19.8	65.5	12.4	0.0
	中学校教員	3.5	23.3	68.6	3.5	1.2
(9) 休日や夏休みなどでの補習事業	市民	10.8	21.1	35.8	28.4	4.0
	保護者	17.1	21.2	36.7	22.9	2.1
	小学校教員	2.8	9.0	49.7	37.9	0.6
	中学校教員	4.7	20.9	58.1	14.0	2.3
(10) 地域住民や保護者が協力する教育活動	市民	12.7	22.6	47.3	13.0	4.4
	保護者	8.6	22.5	48.7	17.6	2.6
	小学校教員	9.0	38.4	50.3	1.7	0.6
	中学校教員	12.8	37.2	47.7	1.2	1.2
(11) 多目的スペースなどを使った自由な学習活動	市民	17.6	26.2	40.4	11.6	4.2
	保護者	14.7	29.0	44.4	10.0	2.0
	小学校教員	6.8	23.2	60.5	8.5	1.1
	中学校教員	4.7	15.1	55.8	20.9	3.5
(12) 一人一人の子どもの心の支援	市民	39.8	31.0	24.0	1.5	3.7
	保護者	42.2	33.3	21.4	1.1	2.0
	小学校教員	46.9	40.7	11.9	0.6	0.0
	中学校教員	41.9	41.9	15.1	0.0	1.2
(13) 道徳教育の充実	市民	48.6	32.1	13.6	1.8	4.0
	保護者	39.6	37.2	20.6	0.7	1.9
	小学校教員	35.6	53.1	10.7	0.6	0.0
	中学校教員	38.4	43.0	17.4	0.0	1.2
(14) 体育祭(運動会)や文化祭(学芸会)の充実	市民	25.5	40.0	27.0	3.3	4.2
	保護者	25.1	40.8	28.5	3.9	1.7
	小学校教員	13.0	54.2	29.9	2.8	0.0
	中学校教員	45.3	40.7	12.8	0.0	1.2
(15) 様々な学年の子どもと一緒に取り組む活動	市民	26.4	34.9	31.2	2.6	4.8
	保護者	28.4	37.1	29.1	3.4	2.0
	小学校教員	26.0	50.3	23.2	0.6	0.0
	中学校教員	18.6	36.0	40.7	3.5	1.2
(16) 小学校と中学校の一貫教育	市民	11.4	21.5	35.8	25.9	5.3
	保護者	12.8	21.2	36.3	26.8	2.9
	小学校教員	16.4	29.9	38.4	14.1	1.1
	中学校教員	15.1	29.1	37.2	16.3	2.3
(17) 愛情込めた厳しい生徒指導	市民	31.6	29.9	27.7	7.3	3.5
	保護者	33.2	31.7	26.8	5.9	2.3
	小学校教員	29.4	48.6	19.8	2.3	0.0
	中学校教員	32.6	57.0	9.3	0.0	1.2
(18) 中学校での部活動の充実	市民	30.3	36.3	25.9	4.2	3.3
	保護者	34.0	34.0	25.5	4.0	2.5
	小学校教員	—	—	—	—	—
	中学校教員	36.0	51.2	9.3	2.3	1.2

集計結果の上位5項目は

- ①読み書きや計算の反復学習(95.0%)
- ②グループで話し合ったり調べたりする学習(89.7%)
- ③道徳教育の充実(81.9%)
- ④一人一人の子どもの心の支援(79.4%)
- ⑤個人で調べて発表する学習(77.9%)

※割合については、「ぜひ取り組んでもらいたい」と「取り組んでもらいたい」の合計の平均率で示しています。

6. あなたの学校では、次のことにどの程度力を入れて取り組んでいますか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

表10 取り組みの程度

		とても力を入れて取り組んでいる	力を入れて取り組んでいる	少し力を入れて取り組んでいる	取り組んでいない	無回答
(1)読み書きや計算の反復学習	小学校教員	50.8	45.8	2.8	0.0	0.6
	中学校教員	26.7	52.3	18.6	0.0	2.3
(2)個人で調べて発表する学習	小学校教員	9.0	63.3	27.1	0.0	0.6
	中学校教員	7.0	41.9	46.5	2.3	2.3
(3)グループで話し合ったり調べたりする学習	小学校教員	13.0	69.5	16.4	0.0	1.1
	中学校教員	24.4	40.7	31.4	0.0	3.5
(4)一人一人の子どもが自分に合った内容を学習する個別指導	小学校教員	7.9	45.2	39.5	5.1	2.3
	中学校教員	0.0	36.0	53.5	8.1	2.3
(5)複数の教師と一緒に指導する授業	小学校教員	10.7	36.2	40.1	10.2	2.8
	中学校教員	12.8	38.4	40.7	5.8	2.3
(6)学級を分けて行う少人数授業	小学校教員	4.0	21.5	42.4	31.1	1.1
	中学校教員	1.2	17.4	46.5	31.4	3.5
(7)職業体験などの社会体験活動	小学校教員	1.1	15.8	40.7	40.7	1.7
	中学校教員	14.0	61.6	22.1	0.0	2.3
(8)高度な発展的内容の指導	小学校教員	1.1	7.3	50.3	37.3	4.0
	中学校教員	0.0	10.5	52.3	33.7	3.5
(9)休日や夏休みなどでの補習事業	小学校教員	2.8	20.9	57.1	15.8	3.4
	中学校教員	5.8	26.7	54.7	9.3	3.5
(10)地域住民や保護者が協力する教育活動	小学校教員	11.9	39.0	41.8	6.8	0.6
	中学校教員	3.5	20.9	51.2	20.9	3.5
(11)多目的スペースなどを使った自由な学習活動	小学校教員	2.3	9.0	43.5	41.8	3.4
	中学校教員	0.0	5.8	24.4	64.0	5.8
(12)一人一人の子どもの心の支援	小学校教員	14.1	61.6	21.5	1.7	1.1
	中学校教員	17.4	44.2	31.4	2.3	4.7
(13)道徳教育の充実	小学校教員	11.3	55.4	31.1	1.7	0.6
	中学校教員	5.8	46.5	43.0	1.2	3.5
(14)体育祭(運動会)や文化祭(学芸会)の充実	小学校教員	19.8	61.6	16.9	0.6	1.1
	中学校教員	31.4	51.2	12.8	0.0	4.7
(15)様々な学年の子どもと一緒に取り組む活動	小学校教員	21.5	59.3	16.9	1.1	1.1
	中学校教員	3.5	19.8	54.7	18.6	3.5
(16)小学校と中学校の一貫教育	小学校教員	0.6	12.4	32.8	49.7	4.5
	中学校教員	0.0	5.8	36.0	54.7	3.5
(17)愛情込めた厳しい生徒指導	小学校教員	13.6	53.1	29.4	3.4	0.6
	中学校教員	34.9	46.5	16.3	0.0	2.3
(18)中学校での部活動の充実	小学校教員	—	—	—	—	—
	中学校教員	30.2	55.8	11.6	0.0	2.3

集計結果の上位5項目は

- ①読み書きや計算の反復学習(87.8%)
- ②体育祭(運動会)や文化祭(学芸会)の充実(82.0%)
- ③愛情込めた厳しい生徒指導(74.0%)
- ④グループで話し合ったり調べたりする学習(73.8%)
- ⑤一人一人の子どもの心の支援(68.6%)

※割合については、「とても力を入れて取り組んでいる」と「力を入れて取り組んでいる」の合計の平均率で示しています。

7. 学校の望ましいあり方をどのようにお考えですか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

表11 学校の望ましい在り方

		ぜひそう あってほ しい	そうあっ てほしい	できれば そうあっ てほしい	そうあっ てほしい と思わな い	無回答
(1) 施設整備が安全である	市民	72.7	18.5	5.5	0.9	2.4
	保護者	82.9	12.6	2.8	0.1	1.6
(2) 防音、空調などの面で快適である	市民	27.5	35.2	30.8	3.5	3.1
	保護者	40.1	36.2	20.5	1.4	1.8
(3) 図書や教材が充実している	市民	42.4	37.4	16.7	0.2	3.3
	保護者	47.9	39.2	10.8	0.3	1.8
(4) 子ども一人ひとりに教師の目が行き届く	市民	52.7	29.9	13.8	0.9	2.6
	保護者	68.5	22.3	7.5	0.1	1.6
(5) 子どもたち同士が励まし合って成長する	市民	54.9	31.4	9.9	0.7	3.1
	保護者	67.7	26.1	4.6	0.0	1.6
(6) 子どもたちと地域住民の交流が活発である	市民	27.3	37.4	29.9	2.0	3.5
	保護者	29.9	42.3	24.8	1.3	1.7
(7) 保護者や地域住民が学校に協力的である	市民	27.9	44.0	23.7	1.1	3.3
	保護者	32.7	43.0	21.9	0.9	1.5
(8) 保護者や地域住民が意見を言いやすい	市民	23.1	40.9	28.8	3.5	3.7
	保護者	31.5	41.9	23.6	1.2	1.8
(9) 保護者や地域住民に学校の情報が伝えられている	市民	31.4	39.8	23.1	2.2	3.5
	保護者	43.6	39.5	14.6	0.6	1.8
(10) 教師が授業準備に十分時間をかけられる	市民	40.4	35.4	19.3	1.3	3.5
	保護者	46.8	37.6	13.6	0.4	1.6
(11) 教師同士が協力し合う	市民	58.9	26.8	10.8	0.4	3.1
	保護者	62.9	27.6	7.8	0.2	1.5

集計結果の上位5項目は

- ①施設設備が安全である(77.8%)
- ②子どもたち同士が励まし合って成長する(61.3%)
- ③教師同士が協力し合う(60.9%)
- ④子ども一人ひとりに教師の目が行き届く(60.6%)
- ⑤図書や教材が充実している(45.2%)

※割合については、「ぜひそうあってほしい」のみの平均率で示しています。

市民、保護者ともに「施設設備が安全である」が最多回答であった。次いで市民では「教師同士が協力し合う」保護者では「子ども一人ひとりに教師の目が行き届く」と回答が分かれた。

最多回答の「施設設備が安全である」が選ばれた背景として、東日本大震災の影響が考えられ、子どもたちの安全の確保並びに地域住民の避難場所でもある学校の耐震化等の要望と考えられる。

8. あなたのお子さんが通っている学校は、次の項目にどの程度当てはまりますか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。※小学校と中学校にお子さんが通っている場合は、小学校についてお答えください。(あなたの学校は次の各項目にどの程度当てはまりますか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。)

表12 学校の実際

		とても当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	わからない
(1) 施設整備が安全である	保護者	10.8	41.0	23.6	9.2	12.6
	小学校教員	13.0	36.2	36.7	11.9	—
	中学校教員	11.6	38.4	27.9	18.6	—
(2) 防音、空調などの面で快適である	保護者	7.2	24.8	32.9	21.0	11.7
	小学校教員	9.6	22.6	36.7	29.9	—
	中学校教員	7.0	25.6	29.1	37.2	—
(3) 図書や教材が充実している	保護者	9.3	42.0	21.2	5.6	19.0
	小学校教員	8.5	40.1	41.2	9.0	—
	中学校教員	1.2	26.7	51.2	19.8	—
(4) 子ども一人ひとりに教師の目が行き届く	保護者	12.3	48.0	19.6	5.6	11.9
	小学校教員	18.6	59.9	17.5	2.8	—
	中学校教員	18.6	55.8	20.9	2.3	—
(5) 子どもたち同士が励まし合って成長する	保護者	12.3	55.0	15.6	3.0	11.2
	小学校教員	11.3	79.1	8.5	0.6	—
	中学校教員	11.6	61.6	22.1	2.3	—
(6) 子どもたちと地域住民の交流が活発である	保護者	10.9	45.1	23.4	5.8	12.0
	小学校教員	19.8	54.2	23.2	1.7	—
	中学校教員	5.8	27.9	53.5	10.5	—
(7) 保護者や地域住民が学校に協力的である	保護者	14.3	56.1	13.3	2.6	10.9
	小学校教員	34.5	53.7	10.7	0.0	—
	中学校教員	17.4	64.0	15.1	0.0	—
(8) 保護者や地域住民が意見を言いやすい	保護者	8.1	45.8	21.8	5.3	16.0
	小学校教員	25.4	68.4	4.5	0.6	—
	中学校教員	14.0	74.4	10.5	0.0	—
(9) 保護者や地域住民に学校の情報が伝えられている	保護者	15.7	52.3	15.9	3.5	10.0
	小学校教員	40.1	57.1	2.3	0.0	—
	中学校教員	22.1	68.6	7.0	0.0	—
(10) 教師が授業準備に十分時間をかけられる	保護者	6.0	34.8	14.6	3.3	38.1
	小学校教員	2.3	32.8	51.4	11.9	—
	中学校教員	4.7	27.9	44.2	22.1	—
(11) 教師同士が協力し合う	保護者	11.9	37.2	9.3	2.0	36.8
	小学校教員	53.7	39.5	5.1	0.6	—
	中学校教員	40.7	51.2	5.8	1.2	—

集計結果の上位5項目は

- ① 保護者や地域住民に学校の情報が伝えられている(85.3%)
- ② 保護者や地域住民が学校に協力的である(80.0%)
- ③ 保護者や地域住民が意見を言いやすい(78.7%)
- ④ 教師同士が協力し合う(78.1%)
- ⑤ 子どもたち同士が協力し合って成長する(77.0%)

※割合については、「とてもあてはまる」と「少しあてはまる」の合計の平均率で示しています。

集計結果の上位3位までは学校と保護者・地域住民との良好な関係を構築されているのが伺える結果となった。それに対し、施設面での設問では「当てはまらない」等の回答が4割近くを占めており、学校環境整備の遅れを示す結果となった。

9. 現在、あなたのお子さんが通っている学校の児童生徒数について、どのように感じますか。※小学校と中学校にお子さんが通っている場合には、小学校についてお答えください。(現在、あなたが勤務している学校の児童数／生徒数について、どのように感じますか。)

表13 児童生徒数についての受け止め方

		もっと多い方が良い	ちょうど良い	もっと少ない方が良い	わからない	無回答
全校児童生徒数	保護者	20.6	62.6	7.4	5.4	4.0
	小学校教員	20.3	61.6	14.1	0.6	3.4
	中学校教員	22.1	44.2	29.1	1.2	3.5
1学級あたり児童生徒数	保護者	5.2	54.8	33.3	2.7	4.1
	小学校教員	7.3	35.0	52.0	1.1	4.5
	中学校教員	0.0	26.7	72.1	0.0	1.2

1学校あたりの児童生徒数については、保護者・教員ともに今の状況で良いとする割合が6割を占めている。それに対して、1学級あたりの児童生徒数については、保護者は【ちょうど良い】が5割を超えているのに対して教員は【もっと少ないほうが良い】の回答が小学校で5割、中学校で7割を越す結果となった。

10. 小、中学校の1学級あたりの児童生徒数は何人程度が望ましいと思いますか。小学校、中学校それぞれについて、選択肢の中から一つ選んで番号に○をつけてください。

表14 1学級あたりの望ましい児童生徒数

		10人以下	11～20人	21～30人	31～35人	36～40人	分からない	無回答
小学校	市民	0.2	18.7	56.7	16.0	2.4	3.5	2.4
	保護者	0.2	16.4	58.2	16.9	1.9	1.7	4.7
	小学校教員	0.0	18.1	74.0	2.8	0.0	0.0	5.1
	中学校教員	0.0	17.4	48.8	10.5	0.0	1.2	22.1
中学校	市民	0.4	11.9	49.7	24.8	5.5	3.3	4.4
	保護者	0.1	9.4	45.3	26.6	3.3	3.3	11.9
	小学校教員	0.0	5.1	54.2	16.9	0.0	1.7	22.0
	中学校教員	0.0	3.5	64.0	29.1	0.0	0.0	3.5

小学校・中学校ともに【21～30人】が望ましいとの結果がでた。次いで小学校では【11～20人】が多く、中学校では【31～35人】が多い結果となった。

11. 小、中学校の1学年あたりの学級数は何学級程度が望ましいと思いますか。小学校、中学校それぞれについて選択肢の中から一つ選んで番号に○をつけてください。

表15 1学年あたりの望ましい学級数

		1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級以上	分からない	無回答
小学校	市民	2.4	25.9	38.7	11.0	2.6	0.9	16.0	2.4
	保護者	3.1	38.8	38.1	4.4	1.9	0.8	9.3	3.6
	小学校教員	0.6	53.7	40.1	2.3	0.0	0.0	0.6	2.8
	中学校教員	0.0	23.3	47.7	5.8	0.0	0.0	1.2	22.1
中学校	市民	0.2	2.9	33.0	20.7	15.8	5.1	18.7	3.7
	保護者	0.1	4.4	29.1	14.7	14.2	10.7	17.7	9.0
	小学校教員	0.0	2.8	24.3	31.6	18.6	1.7	4.0	16.9
	中学校教員	0.0	0.0	41.9	37.2	14.0	2.3	1.2	3.5

市民・保護者から見た小学校の1学年あたりの学級数は【2～3学級】とする割合が全体の70%を占め、中学校では【3～4学級】とする割合がもっとも高かった。一方教員も同じ結果で、小学校が【2～3学級】で全体の80%を占め、中学校でも【3～4学級】とする割合が67%となった。小学校で割合の高かった【2～3学級】は国の示す標準学級数と同じである。

12. 小学校／中学校の規模についての質問です。児童／生徒が減って小学校／中学校が小規模になってきた場合、どの程度になれば適正な規模を維持するための対策をとるべきだと思いますか。次の選択肢の中からあなたの考えに最も近いものを一つ選び、番号に○をつけてください。

表16 対策が必要になる学校規模

		学年2学級で対策	学年1学級で対策	学年20名で対策	学年10名で対策	学年5名で対策	対策必要なし	その他	分からない	無回答
小学校	市民	8.8	23.1	27.5	22.4	6.8	2.0	0.7	4.6	4.2
	保護者	2.8	18.2	30.6	27.1	7.3	2.9	0.4	8.1	2.7
	小学校教員	0.6	15.3	27.1	41.2	11.3	0.6	0.0	0.6	3.4
中学校	市民	28.1	26.2	22.2	10.3	2.2	1.3	0.9	6.6	2.2
	保護者	20.1	24.0	21.8	11.0	2.5	3.2	0.6	12.5	4.2
	中学校教員	18.6	47.7	18.6	7.0	0.0	1.2	1.2	3.5	2.3

小学校では、市民・保護者は【学年20名で対策】が最も割合が高く、教員では【学年10名で対策】が最も高い割合となった。中学校では、市民は【学年2学級で対策】が最も高かったが、保護者及び教員は【学年1学級で対策】の割合が高かった。

13. 小学校／中学校の配置についての質問です。小学校／中学校の適正な規模を維持するために、どのような対策が望ましいと思いますか。次の選択肢の中からあなたの考えに最も近いものを一つ選び、番号に○をつけてください。

表17 適正な規模を維持するための対策

		通学区域見直し、統合あり	通学区域見直し、統合なし	通学区域見直しなし、統合あり	学校間交流	対策必要なし	その他	分からない	無回答
小学校	市民	41.1	28.4	2.9	12.1	0.7	1.5	10.8	2.6
	保護者	32.9	29.0	2.9	13.0	2.0	1.0	16.3	2.9
	小学校教員	52.5	24.9	6.8	4.5	1.1	1.1	6.2	2.8
中学校	市民	47.7	25.3	2.9	9.7	1.3	0.9	10.5	1.8
	保護者	34.5	26.8	3.0	9.9	2.2	0.9	18.3	4.4
	中学校教員	57.0	26.7	4.7	3.5	0.0	2.3	2.3	3.5

小学校・中学校ともに最も高い割合となったのは【通学区域見直し・統合あり】となった。次いで【通学区域見直し・統合なし】、【学校間交流】となっている。

14. 学校の統合や通学区域を検討する場合、次のことをどの程度重視すべきであると思いますか。それぞれの項目について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

表18 学校統合や通学区域の検討で重視すべき事項

		とても重視すべきである	重視すべきである	あまり重視しなくてよい	重視しなくてよい	分からない	無回答
(1) 施設面で子どもの学習環境を良くすること	市民	37.8	47.0	4.5	0.9	1.8	5.1
	保護者	49.4	40.8	4.5	0.8	2.0	2.5
	小学校教員	56.5	36.2	1.7	0.0	0.0	5.6
	中学校教員	52.3	37.2	1.2	0.0	0.0	9.3
(2) 複式学級をつくらないこと	市民	25.5	37.4	17.8	8.8	5.5	5.1
	保護者	32.9	37.8	16.3	4.7	6.8	1.5
	小学校教員	40.1	41.2	10.2	1.1	1.7	5.6
	中学校教員	31.4	40.7	12.8	2.3	3.5	9.3
(3) 中学校の免許外担当が生じないようにすること	市民	31.9	44.0	12.3	4.6	2.4	4.8
	保護者	39.2	38.6	12.5	2.7	4.9	2.1
	小学校教員	37.9	45.8	7.3	0.0	4.0	5.1
	中学校教員	48.8	37.2	4.7	1.2	1.2	7.0
(4) 通学の便	市民	36.9	49.0	7.7	1.1	1.1	4.2
	保護者	48.1	43.9	4.4	0.3	1.6	1.8
	小学校教員	42.9	47.5	4.0	0.6	0.0	5.1
	中学校教員	36.0	50.0	3.5	0.0	1.2	9.3
(5) 今後の児童生徒数の推移	市民	16.5	59.1	12.5	1.8	5.7	4.4
	保護者	16.8	55.3	16.3	1.5	7.2	2.9
	小学校教員	29.9	54.2	9.6	0.6	1.1	4.5
	中学校教員	19.8	65.1	4.7	2.3	0.0	8.1
(6) 保護者の理解	市民	31.2	53.8	6.6	1.1	2.6	4.6
	保護者	37.3	53.6	4.5	0.5	2.6	1.5
	小学校教員	46.9	48.6	0.0	0.0	0.0	4.5
	中学校教員	45.3	41.9	4.7	0.0	0.0	8.1
(7) 地域住民の理解	市民	22.2	56.9	12.7	0.9	3.1	4.2
	保護者	30.4	55.6	7.7	1.2	3.4	1.8
	小学校教員	42.4	48.0	4.5	0.0	0.0	5.1
	中学校教員	41.9	41.9	8.1	0.0	0.0	8.1
(8) 思い切った新しい学校づくり	市民	18.5	32.7	25.5	7.9	10.3	5.1
	保護者	18.6	40.8	20.5	4.5	13.3	2.2
	小学校教員	19.8	45.2	22.6	2.8	3.4	6.2
	中学校教員	20.9	45.3	19.8	1.2	2.3	10.5
(9) 市の財政	市民	21.1	48.6	13.6	3.3	9.0	4.4
	保護者	24.9	44.7	11.5	2.4	14.4	2.1
	小学校教員	22.6	57.1	7.3	0.6	6.8	5.6
	中学校教員	23.3	54.7	9.3	2.3	2.3	8.1
(10) 県の指針(茨城県教育委員会は、小学校は全校で12学級以上、中学校は全校で9学級以上が望ましいとしています)。	市民	8.4	28.6	36.7	9.5	9.9	7.0
	保護者	9.9	31.4	31.2	8.8	15.2	3.6
	小学校教員	15.3	42.9	28.2	3.4	4.0	6.2
	中学校教員	7.0	50.0	23.3	8.1	2.3	9.3

集計結果の上位5項目は

- ① 保護者の理解(89.7%)
- ② 施設面で子どもの学習環境を良くすること(89.3%)
- ③ 通学の便(88.6%)
- ④ 地域住民の理解(84.8%)
- ⑤ 中学校の免許外担当が生じないようにすること(80.8%)

※割合については、「とても重視すべきである」と「重視すべきである」の合計の平均率で示しています。

